

2023年度第1回情報教育研究委員会情報専門教育分科会議事概要

I. 日 時：令和5年10月23日（月）17：00～19：30

II. 場 所：Zoom 会議室

III. 出席者：大原主査、藤田委員、内山委員、金子委員、佐野委員、矢野委員、小田委員、高田アドバイザー、
斎藤アドバイザー、畑口アドバイザー、光井アドバイザー
（事務局）井端事務局長、野本

IV. 議事内容

1. SDGs サイバーフォーラムコモンズ構想のパイロットプラン（試行実験）で検討すべき内容について資料が提示され、検討を進めた。

- ・ 大学・企業の共創活動により、学生が解のない問題に立ち向かえるように志向する取組みとしている。
- ・ パイロット事業は、2年後に実施を予定している。
- ・ パイロット事業化では、参加する大学・企業を選定することを考えている。
- ・ 活動環境の整備は、2024年度に2Dメタバースでの構築を想定しており、マッチング情報やチームへの連絡手段なども検討する必要がある。
- ・ プラットフォームの運営は、本協会とし、小委員会を設置して対応を考えているが、常時監視までは行わないことにする。
- ・ マッチング後の共創活動プラットフォームは、大学と企業とで調整して対応することになっている。
- ・ 利用ルールガイドラインのビデオ化は、活動の心得を中心に整理してはどうか。
- ・ マッチングに際しての情報（項目）を整理する必要がある。

① パイロットプラン骨組み検討への意見

- ・ ビジネスの目標に合わない場合は、企業の対応が懸念される。
- ・ マッチングの際、大学と企業では、ニーズに差があるのではないかと考える。

② 事業の意義への意見

- ・ 参加する学生には、テクノロジーやビジネスの基礎的なノウハウを与える必要があるのではないかと。
- ・ 企業側には、学生の学び（失敗経験含む）を支援することで、社会貢献などの成果・効果を意識する必要がある。
- ・ 連携の在り方を確認することも、パイロットプランの位置づけではないかと。

③ 教育カリキュラムでの位置づけへの意見

- ・ ゼミの中で卒論に向けたテーマとして取り扱うことが考えられる。

④ 期待される効果への意見

- ・ 学生同士のつながりや共働にも意義があるのではないかと。

2. デジタル田園都市国家構想応援団の取組みについて紹介があった。

- ・ 社会の課題をテーマとして、どのようなスキルが身に付いたのかをフレームワークで明確にして評価する方法を進めており、地域DXプロデューサーを認定している。
- ・ 学生から見た場合、細かく目標を絞ると自由度に縛りがでる懸念があり、教員が評価の指針としてフレームワークを利用することは考えられるのではないかと。

V. その他(今後のスケジュール)

- ・ 次回の分科会は、12月26日14時に開催し、今後は以下の検討を予定している。

① 第2回情報専門教育分科会

- ※ パイロット事業化に参加する大学、企業・自治体等組織の選定
- ※ マッチング・発表・評価のプラットフォーム環境の整備
- ※ マッチング後の共創活動プラットフォーム環境の整備

② 第3回情報専門教育分科会（令和6年1月末予定）

- ※ メタバース利用ルールのガイドライン、ビデオオンデマンドの整備
- ※ マッチング情報の整理

③ 産学連携人材ニーズ交流会に提案（令和6年3月4日予定）

- ※ 「SDGs サイバーフォーラムコモンズ構想」のパイロットプラン案を報告